

令和5年度
施政方針



粕屋町

1.はじめに

本日、ここに令和5年度の予算案をはじめ、関係諸議案のご審議をお願いするにあたり、町政運営に関する所信の一端を申し上げますとともに、予算案及び重点施策の概要をご説明いたします。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、ロシアによるウクライナ侵攻を背景とした国際的なエネルギー価格の高騰に加え、円安の加速化により食料品やガソリン価格、電気料金などの値上げが進むなど、住民生活や地域経済への影響は深刻なものになりました。

そのような中で、本町では、原油価格・物価高騰対策や個人消費の喚起、地域経済の活性化を図るため、商工会と連携し、かすやエール商品券やかすやよかばい商品券(プレミアム付地域商品券)を発行するとともに、困難に直面されている方々の暮らしを支援するため、各種生活支援給付金の給付など、切れ目なく様々な経済対策や緊急支援事業に取り組んでまいりました。

日本は今、様々な分野で課題が山積し、かつてない内憂外患の時代を迎えていると言われております。政府は、岸田政権が掲げる新しい資本主

義を実現するため、「科学技術・イノベーション」、「スタートアップ」、
「GX^{※1}」、「DX^{※2}」の4分野に重点を置いて、官民の投資を促進させると
しています。また、新しい資本主義の取組の次の段階として、「こども・子
育て政策」を最重要政策として位置づけました。

急速に進行する少子化により、去年の出生数は80万人を割り込むと見
込まれ、我が国は、社会機能を維持できるかどうかの瀬戸際と呼ぶべき状
況に置かれています。本年4月に発足するこども家庭庁の下で、こども・子
育て政策を体系的に取りまとめつつ、将来的なこども・子育て予算倍増に
向けた大枠を提示するとしています。

本町の令和4年の出生数は575人で、若干減少傾向にあるものの、出
生率は全国市町村においても高水準を維持しております。かねてから町
として子育て支援の充実、より良い教育・保育環境の整備に取り組んでき
た成果とも言えますが、私の掲げる4つのまちづくりの一丁目一番地の施
策である「子育てしやすいまちづくり」を加速させ、子育て応援都市「かす
や」を実現するためにも、これからも安心してこどもを産み、健全に、安全
に、豊かに育てられるまちづくりを進めてまいります。

※1 GX:Green Transformation(グリーントランスフォーメーション)の略で化石燃料をできるだけ使わず、
クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと。

※2 DX:Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)の略でデジタル技術を浸透させるこ
とで人々の生活をより良いものへと変革することや、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイ
ノベーションをもたらすものこと。

政府が成長戦略として掲げる GX や DX、そして本町における人口5万人到達を見込んだ市制を見据えた環境整備、今直面する困難で先送りできない課題や、その先の未来に対して、職員一人ひとりが正面から向き合い、進取果敢^{しんしゅかかん}※3に取り組んでまいります。

※3 進取果敢: 固定観念にとらわれず進んで新しいことに取り組み、決断力に富んでいること。

2. 令和5年度 予算案

それでは、令和5年度の予算案についてご説明いたします。

まず、歳入について、根幹となる町税収入は、個人・法人町民税、固定資産税、軽自動車税など、全ての税において堅調に伸びると見込んでおり、前年度から増加としていますが、臨時財政対策債を含めた地方交付税は、税収の増加などにより減少を見込んでいます。寄附金については、近年のふるさと納税の伸びにより増加を見込んでおり、令和5年度も返礼品の新規開拓や充実を目指して事業の更なる推進を図ります。その他、国庫支出金については、新型コロナウイルスワクチン接種事業の規模縮小などに伴い減少とし、町債については、令和4年度に続き令和5年度も個別施設計画に基づく公共施設の改修をはじめとする起債を活用した多数の事業を予定していますが、完了した事業も多く約 14 億 5,000 万円の大幅な減少としております。

歳出については、ふるさと納税事業費の伸びなどにより総務費が増加、朝日団地建替工事の実施などにより土木費が増加、町債残高の増加により公債費が増加しています。一方で、衛生費については、新型コロナウイルスワクチン接種事業の縮小や清掃センター除却事業の完了などにより

減少となっています。また、教育費については、粕屋中学校増築事業の完了、西幼稚園長寿命化改修事業の完了に加え、阿恵官衙遺跡史跡地の購入完了などにより約 11 億 8,000 万円の減少としております。

なお、財源不足を補うため、財政調整基金から 4 億 4,900 万円の繰入れを計上するとともに、ふるさとづくり寄附金の寄附者の意向を反映し、ふるさとづくり基金から 4 億 8,260 万円を繰り入れています。

予算規模については、

一般会計	201 億 8,000 万円
特別会計	67 億 9,129 万 9 千円
企業会計	36 億 3,508 万 3 千円
予算総額	306 億 638 万 2 千円

となっています。

これは、一般会計が、前年度比マイナス 3.4%で 7 億 800 万円減少しましたが、前年度から2年連続で 200 億円を超える予算規模となりました。特別会計と企業会計を合わせた総額では、前年度比マイナス 4.4%、14 億 277 万 1 千円の減となります。

令和5年度の当初予算については、「かすや」の更なる発展につながる、新たな時代に進むための積極的な予算を編成することを基本的な考え方として示しました。編成に当たっては、この基本的な考え方の下、自治体DX、脱炭素、企業立地の推進によって地域の発展につながる好循環を生み出すため、自治体DX及び脱炭素の推進に係る事業については、重点的な取組として優先的に予算を配分するとともに、行政課題、地域課題の解決や公約実現に向けた取組を可能な限り予算に反映し、前年度に続き200億円を超える積極型の予算を編成しました。歳入面では、堅調に伸びている税収に加え、国・県補助金やふるさとづくり基金の活用などで財源を確保し、財政調整基金からの繰入れは前年度並みに抑え、積極的な投資と財政規律の両立を実現する予算としています。

3. 町政運営の方針

それでは、公約に沿って、重点施策の概要についてご説明いたします。

子育てしやすいまちづくり

令和5年度は新しい中央保育所の園舎が完成します。公立の保育所として、行政機関としてのこれまで担ってきた機能や役割を維持し、多様化する保育ニーズに柔軟かつ迅速に対応しながら、地域全体の保育水準を高めます。また、町立幼稚園の定員割れへの対応については、有識者を交えた「在り方検討会議」を開催し、町立保育所を含めた再編整備の方向性について検討していきます。

子どもたちの熱中症対策に加えて、災害発生時における避難者の生活環境改善のため、小中学校の体育館への空調設備設置に着手します。また、粕屋中央小学校第3期大規模改造工事や仲原小学校及び粕屋西小学校校舎増築工事など、未来の粕屋町の子どもたちのため、より良い環境づくりを進めるための事業を精力的に実施します。

住みやすいまちづくり

本町の中心拠点としての機能充実を図るため、まちの中心に位置する長者原駅周辺の基盤整備を進めます。令和5年度は長者原駅から駕与丁

公園間において、デジタルサイネージ^{※4}やルートサインを整備し、駕与丁公園までのルート案内など、近隣施設とのネットワーク強化を図ります。

交通事業者等と連携し、将来にわたり安定的な公共交通の確保を図るとともに、多様なニーズへきめ細やかな対応ができる交通体系を目指し、コミュニティバスなどの導入調査を行います。

誰もが利用でき、多様性への理解を深め、地域や社会とのつながりを広げていけるようにするため、町内の公園にユニバーサルデザイン^{※5}に配慮したトイレやインクルーシブ遊具^{※6}の設置を進めます。

誇れるまちづくり

町のランドマークである駕与丁公園は、本町の魅力の中心となる緑の拠点として、また、安全・安心に利用できる憩いと交流の場として適正な維持管理に努めます。令和5年度は駕与丁公園施設長寿命化計画に基づき、八ツ橋や園路改修工事を実施し、更なる魅力向上に取り組めます。

地球温暖化の進行に伴い、今後、気象災害の更なる頻発化・激甚化な

※4 デジタルサイネージ:屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するメディアの総称。

※5 ユニバーサルデザイン:年齢や性別、身体的能力などの違いにかかわらず、はじめから、できるかぎり全ての人が使いやすいように、製品や建物、空間をデザインしようとする考え方。

※6 インクルーシブ遊具:インクルーシブは「包摂(ほうせつ)的な、全てを包み込む」という意味のことば。体に障がいがある子も、ない子も一緒になって遊ぶことができる遊具。

どが予測されております。こうした私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」とも呼ばれる問題に対処するため、2050年までに二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボン^{※7}シティかすや」を令和4年3月に宣言しました。

令和5年度から、公用車の電気自動車等への順次転換や学校施設等へ太陽光発電設備等の導入を進めるとともに、地球温暖化対策実行計画の策定、公共施設への太陽光発電設備等の導入可能性調査を行い、GXの取組を積極的に推進します。また、災害時の避難所において、現在段ボール製のベッド及びパーティションを使用していますが、並行して繰り返し使用可能なテント式のパーティション及びエアーマットを導入します。

安心して生活できるまちづくり

近年多発する豪雨による洪水氾濫に備えるため、仲原川(旧南里水路)の護岸改修・浚渫工事を行い、河川の治水対策を推進します。

平成17年度に導入した防災行政無線は、災害時における情報伝達手段として重要な役割を担っているだけでなく、平常時においても有効活用されています。大規模な自然災害が日本各地で頻発している中、通信機能の強化を図り、迅速かつ確実な情報伝達手段を確保するため、防災行政無線の更新に着手します。

^{※7} ゼロカーボン:二酸化炭素(CO₂)やメタン(CH₄)といった、温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにすること。

次に、第5次粕屋町総合計画に掲げる4つのまちづくり基本目標に沿って、主要な事務事業の内容を申し上げます。令和5年度は合計135の事務事業の実施を予定しています。

[基本目標1] つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

令和5年度は予算額47億6,664万9千円を計上し、39事務事業の実施を予定しています。

- 粕屋町総合体育館(かすやドーム)大規模改造工事により、現在、メインアリーナ・プール・弓道場を休館しており、大変ご不便をおかけしていますが、安全にスポーツに親しむことができる環境づくりを進めておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
- 公共施設予約システムを更新し、予約できる対象施設の拡大や電子決済機能の追加など利便性の向上に努めます。
- 大川小学校は明治6年(1873年)に創立され、150周年を迎えた記念事業が開催されます。伝統と歴史を紡いでこられた方々に感謝し、新しい時代を担う子どもたちの未来に幸あらんことを願っています。

- 4月から粕屋町、大野城市、志免町、新宮町による広域の電子図書館サービスを開始いたします。インターネットを通じて、24時間365日、時間と場所を選ばずサービスを利用できますので、これまで忙しくて読書の時間をとれなかった方々もぜひご活用ください。

[基本目標2] 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち

令和5年度は予算額31億8,851万5千円を計上し、27事務事業の実施を予定しています。

- 人口増加や産業需要に対応するため、秩序ある土地利用を誘導し、住宅地や産業施設用地などの確保を図る必要があります。流通業務地としてポテンシャルが高い大隈西地区における土地区画整理事業に対する支援を行い、地域経済の活性化や雇用の創出に繋げていきます。
- 商工会と連携し、新型コロナウイルス感染症の流行によって影響を受けた家計の負担緩和や売上が減少した町内事業所の支援を行うため、かすやよかばい商品券事業、かすやの送って“うレシート”事業を令和5年度も継続して実施します。また、プレミアム付地域商品券の電子化についても支援を行います。

[基本目標3] 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

令和5年度は予算額147億698万9千円を計上し、45事務事業の実施を予定しています。

- 全ての妊産婦、子育て世帯(保護者)、子どもが気軽に相談できる子育て世帯の身近な相談機関として、市区町村に設置が求められている「こども家庭センター」の設置に向けた準備を行います。
- 令和5年度に各種計画(第6期粕屋町障がい者計画、第7期粕屋町障がい福祉計画、第3期粕屋町障がい児福祉計画、粕屋町高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画、第2次男女共同参画計画)を策定します。町民の皆様の審議会へのご参加や、多くのご意見・ご提案をいただきますようお願いいたします。
- 建物や設備の老朽化が進んでいる朝日団地の建替工事を開始し、エレベーターの設置をはじめとしたバリアフリー化や、住宅の省エネルギー化など、良質な住環境の提供に向けて整備します。また、甲仲原団地及び上大隈団地の改修工事を実施し、安心して住み続けられるよう、住宅団地の再生を進めます。

[基本目標4] 健全で持続可能な行政経営をめざすまち

令和5年度は予算額20億578万3千円を計上し、24事務事業の実施を予定しています。

- 本町のマイナンバーカード申請率は令和5年1月末時点で 70%を超え、今や、運転免許証に代わる本人確認のツールとなっています。平成11年から役場玄関に設置しております、証明書自動交付機のサービスを令和5年末をもって終了しますので、新たに証明書コンビニ交付対応行政キオスク端末を設置いたします。
- 昨年6月からデジタル活用における高齢者等の不安の解消に向けて、役場1階ロビーにおいて、毎週月曜日、専門の講師による「スマホお助け窓口」を開設していましたが、大変好評でしたので、期間を延長して実施いたします。
- 役場入口にデジタルサイネージ及びチャットボット^{※8}を搭載した多言語インフォメーション端末を導入し、来庁者に様々な施設案内、周辺情報を自動回答するサービスを提供します。

^{※8} チャットボット:「チャット(会話)」と「ボット(ロボット)」を組み合わせた言葉で、自動会話プログラムのこと。

- 電子入札及び電子契約システムを導入し、これまで紙によって行っていた入札・契約事務を電子化します。町、事業者双方のコストの削減、事務の効率化・迅速化だけでなく、インターネット利用による競争性の向上や受注機会の拡大にも繋がるものと考えています。
- 議会にタブレット端末を導入し、議会の効率的な運営とペーパーレス化を推進します。
- 自然災害の発生時や感染症流行時の BCP^{※9}対策として、テレワークシステムを本格導入します。あわせて、テレワークによる職員のワークライフバランス実現に向けた取組も進めます。
- 本町の庁舎は昭和58年(1983年)に建設され、40年が経過しようとしています。老朽化、狭あい化の解消や災害対応力の強化等、庁舎を取り巻く様々な課題解決に向けて、庁舎整備基本構想・基本計画を策定し、今後の庁舎の増築や改修を進めます。

以上、令和5年度の町政運営の方針を申し述べました。

※9 BCP: Business Continuity Plan の略で、事業継続計画を意味し、自然災害やテロ、感染症流行、システム障害などの緊急事態が発生した際に、事業の復旧・継続が行えるような計画。

4. おわりに

WHO が新型コロナウイルス感染症の流行をパンデミック(世界的大流行)と宣言してから約3年、未だ予断を許さない状況ではありますが、少しずつ、ポストコロナの兆しも見えてまいりました。

デジタルの力で、「地方に都市の利便性を、都市に地方の豊かさを」を目指すデジタル田園都市国家構想。その中では、新たな「豊かさ」の形として、Well-being^{※10}(幸福感)の向上が目標とされています。

ポストコロナの時代の変革期において、本町が選ばれるまちであり続けるために、町民一人ひとりが幸せを実感できる Well-being なまちづくりを進めてまいります。

町民の皆様、そして、ここにお集まりの議員各位におかれましては、なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、令和5年度の施政方針とさせていただきます。

令和5年2月

粕屋町長 箱田 彰

※10 Well-being(ウェルビーイング):幸福で肉体的、精神的、社会的全てにおいて満たされた状態。